岐阜新聞社広告局ホームページ

大学企画

## 大気汚染の原因「VOC」除去　県が小型装置を開発　岐阜大などと共同

◆中小企業向け　製品化を目指す

産学官連携で共同開発したVOC分解処理装置

県保健環境研究所（各務原市）は18日、印刷や塗装関連の工場などから排出され、大気汚染の原因となる揮発性有機化合物（VOC）を除去する分解処理装置を、県内の企業や岐阜大学と共同で開発した、と発表した。中小企業向けの小型で安価なタイプで、試作機の実証試験ではVOCの除去率も高かった。2009（平成21）年度末以降の製品化を目指す。

大気汚染防止法の04年の改正でVOC規制が盛り込まれ、中小規模事業者にも削減の自主的な取り組みが求められている。同研究所は06年度に同大と「TYK」（本部・多治見市）、「加藤電気炉材製造」（土岐市）と連携して開発に着手。昨年7―10月、印刷工場の協力を得て試作機の実証試験を行った。

試作機は幅1・8メートル、奥行き0・9メートル、高さ1・3メートルで、重さ約330キロ。VOCを含む排出ガスを、ハニカム状の炭化ケイ素セラミックスの発熱体を通して急速に300度に熱し、連結する触媒層で分解する。燃焼で熱する場合に比べて安全性が高いという。昨年5月に特許を出願した。

09年度は金属塗装工場で実証試験を行うほか、印刷、塗装業界向けの講習会で装置を説明するなど、実用化に向けた取り組みを進める。

閉じる

Copyright © The Gifu shimbun Press. All rights reserved.